

汚染水処理対策委員会  
第 10 回多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会  
議事概要

議事概要：

- 事務局から、第 9 回多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会議事録案を各委員に諮り、定稿。
- 事務局から、資料 2「説明・公聴会について」について説明。
- 東京電力から、資料 3「多核種除去設備等処理水の性状について」について説明。
- 東京電力から、ALPS 処理水の処分の際には、2 次処理を行うとの意思表示があり、本小委員会でも 2 次処理を行い、トリチウム以外を十分に除去するという前提で議論することに。
- 次回以降の小委員会では、説明・公聴会で得られた論点について、引き続き議論することに。

委員からの主な意見：

- 資料 2 の中で、主な意見⑦における合意形成の在り方等について、特に関心がある。これからの意見交換の内容等について、地域の方に情報提供を行うことや、話し合ったりする場の提供を行って欲しい。
- 説明・公聴会前に放射性物質などに関するリーフレットがあれば不安を払拭できたのではないかと思う。安全性については、統計的に立証されているか否かなどどこまでが妥当であるか整理した上で、今後の議論を深めることが必要。
- 公聴会であった意見について、今後の議論の進め方、スケジュール感がよく見えない。
- 福島民報が行った世論調査では、もっとよく理解してもらいたいとの意見があった。良く理解してもらえるような機会を提供してこなかったことは良くなかった。そこで FAQ のようなものを提供することにはどうか。どうすれば伝わるかという工夫も必要。また、商工業や観光の問題などそれが若手の方々などの疑問に答えていく機会が足りなかったのではないかと考えている。
- トリチウム水タスクフォースの報告書に記載されている処分コストや処分期間について、十分な議論がなされていなかったのに、世間に注目を受けており、非常に心残りである。
- トリチウム以外の核種が残っているとの認識はあったと公聴会では答えたが、思った以上に残っていたとの印象を受けた。2 次処理にも多くの時間が必要になるのではないか。

○残留核種の問題は、タスクフォースから参加していた委員は当然のこととして認識していたと思う。その点、小委員会から参加した委員とは認識のかい離があったと思う。

○処理水については国民の関心事。情報の提供が不十分だったとのことだが、国民の関心事として十分認識していなかったことは残念。また、この小委員会で、トリチウムがほとんどであるという理解で議論していたが、トリチウム以外の核種が風評被害に影響があるのは当然。これらが含まれていることを知っていた東電はどういった形で、小委員会の議論をご覧になってきたのか。

⇒認識に差があり、国民の皆様の関心事を十分に理解できていなかったのだと思っている。発電所に目が行きがちで、敷地境界の線量を守ることにとらわれていた。もっと、関心を持つべきだったと反省している。

○データの公開について、東電は今後どのような対応を取るのか。

⇒日々のデータの公開に加え、データの集約を定期的に行い、情報提供を行いたい。

○2次処理の際における逆浸透膜装置の有効性や処理量を確認したい。

⇒処理後の濃縮水と淡水の比を極端なものにしなければ、効果的であると考えているが、もう少し検討したい。処理能力についてはALPSと同じ程度。

○規制面について、特に説明が不足している。東京電力の資料もわかりにくい。基本的なことを含め、分かりやすいような資料をそろえるべき。

【参考】第10回多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会

日時：平成30年10月1日（月）15：30～17：30

場所：経済産業省本館地下2階講堂

議題：

- (1) 第9回議事録（案）の確認
- (2) 説明・公聴会について
- (3) 多核種除去設備等処理水の性状等について
- (4) その他

出席者：

委員長	山本 一良	名古屋学芸大学副学長（名古屋大学 名誉教授）
委員	開沼 博	立命館大学衣笠総合研究機構准教授
	柿内 秀樹	（公財）環境科学技術研究所環境影響研究部研究員
	小山 良太	福島大学経済経営学類教授
	崎田 裕子	ジャーナリスト・環境カウンセラー NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
	関谷 直也	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター准教授
	高倉 吉久	東北放射線科学センター理事
	辰巳 菊子	（公社）日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会常任顧問
	森田 貴己	（国研）水産研究・教育機構 中央水産研究所 海洋・生態系研究センター 放射能調査グループ グループ長
	山西 敏彦	（国研）量子科学技術研究開発機構
事業者	松本 純一	東京電力ホールディングス（株）福島第一廃炉推進カンパニー廃炉推進室長
オブザーバー	辻 昭弘	外務省軍縮不拡散・科学部 国際原子力協力室長【代理（中澤専門員）】
	登り 俊也	農林水産省大臣官房文書課災害総合対策室長【代理（宮田専門官）】
	廣山 久志	水産庁増殖推進部研究指導課長
	今井 俊博	原子力規制庁東京電力福島第一原子力発電所事故対策室長
	鴨志田 守	原子力損害賠償・廃炉等支援機構技術グループ 審議役
	菅野 崇	福島県危機管理部原子力安全対策課長

廃炉・汚染水対策チーム事務局：

松永チーム事務局長補佐、古賀チーム事務局長補佐、新川チーム事務局長補佐、比良井事務局総括、田中企画官、奥田廃炉・汚染水対策官、生越現地事務所長